

七度カマドにくべても燃え尽きないといわれるナナカマド（七竈）の葉が色付き、実も赤味がかってきたようだ。また、最近、ヒグマが人里近くに盛んに出没している。冷夏の影響か、山の植物が少ないのだろうか。

さて、先日ある者から面白い話を聞いた。『北海道の地図を眺めていて、気付いたことがある。北海道には、〇〇岬はあるけれども、〇〇崎はない。何故だろうか』

そこで、市販の道路地図帳で北海道の岬、崎について調べてみた。離島を含め道内の岬(崎)は、182 ある。概括的に述べるならば、次のような特徴がある。



(霧多布岬)

- ① カタカナの岬(崎)が 3 分の一弱ある。アイヌ語の地名を漢字の当て字で表し得なかったのだろう。国・郡・卿等の地名は、佳字を用い、且つ二字に書くようにとの元明女帝の詔勅（713 年、和銅 6 年）が發布されて以来、我が国の地名は概ね漢字二文字になった。北海道についても例外ではないのだが、アイヌ語起源の地名を佳字二文字にするために言い知れぬ苦勞もあったのだろう。
- ② 「崎」の付く岬（崎）が全く無い訳ではなく、道内の岬(崎)の内 21 個は崎のつく岬(崎)である。1 割強だから少ないといえば少ないのだろう。
- ③ 同名の岬があるのが、弁天岬が 4 個、立待岬が 2 個である。弁天岬が岬の名称に多く付けてあるのは、航海の神様だからであろう。七福神中ただ一人の女神で、たおやかな腕に琵琶を抱いた弁天様は、芸能と蓄財の神であり、何時の間にか長い歴史の中で農業や漁業者、船乗り達の守り神になった。岬（崎）は航海者、漁業者にとって道標でもあり、守り神の名称をつけるのも当然だろうし、確認してはいないが、弁天様をお祭りしている社・祠もあるのだろう。辞典によると、神様が祀ってある沖合いを通過する舟は、帆を下げて敬意を表し、神様には初物の魚を供える習慣があったという。  
立待岬は森昌子の歌以来有名になったが、もう一つの「立待岬」との自家争いの究明をするのも大人気ないのだろう。どちらもそれなりの謂れがあって名付けられたのだろう。2 個あるということだけに留めておきたい。
- ④ 竜の付く岬も目に付く。竜神岬と竜神崎、竜ヶ岬、雷竜岬である。竜も海洋者にとっては守護神でもあろう。竜神は、古代中国の想像上の霊獣である竜と、日本の水神の表徴とされる蛇信仰が習合して生まれた神格で在る。竜神は、漁業生産とも関連し、豊漁

を祈って沖止めし海神や竜宮の神をまつる竜神祭が広く行われている。また漁民の間では、金物を海に落とすと竜神の怒りをかうとして禁じられているが、これは金つけを嫌う蛇神＝水神信仰を背景にした伝承である。

- ⑤ 漢字は単なる当て字であるので、漢字から「みさき」をイメージしようとしても出来ない道理ではあるが、それでも面白い名称の「みさき」がある。湯沸岬、紅煙岬、黄金岬、弁慶岬（確か弁慶の立像があった）、女郎ヶ岬等々

本論である、「岬」、「崎」又は「埼」の違い等に付いてである。

「みさき」とは海に突き出た陸地の先端部であり、「みさき」を示す用語としては、岬、崎、埼、碕、角、鼻などがある。「岬」「崎」「埼」等は、基本的には、同義語と考えて良いが、厳密には若干の差異があるようだ。（鼻については、鹿児島県の「長崎鼻」などの例がある。）

山への「崎」は、本来的には山の様子の険しいことを言い、山脚の突出した所を示し、土への「埼」は、平地たる陸地が水部へ突出した所を表現している。又、岬は、もともと「崎」の美称である「御崎」が語源であるので、崎と岬は、同じものである。以上のことから、崎（岬）と埼は突き出た陸地の形状により異なると解釈するのが妥当だろう。即ち、山脚が水部に突き出たのが「崎（岬）」で、平地部が同じく突き出たのが「埼」と考えて良いのだろう。

前述したように、岬と崎は同義であるが、演歌や映画などの影響もあってか、イメージ的に岬の方が情緒があるとの認識が在り、足摺崎を足摺岬のように変更した（1965年）例もある。

所によっては、「みさき」の名称までをも変更した例もあるとか。ここまで行くとやり過ぎと言わずばなるまい。町名等の歴史的謂れのあるものをも変更しているが、考え物だ。

「崎」と「埼」が一見混乱して使われているやに思われる。たとえば、観音崎、観音埼等の書き分けが為されている。が、之は、陸図と海図による差異である。海図では、海洋に突き出た陸地の突端部「みさき」を、土への「埼」と表現してある。一方、海図に対して陸図とも言うべき地図では、山への「崎」を使用している。何故、このような差異が生じるのだろうか。地図を管轄する国土地理院は、前身の旧陸軍陸地測量部の「崎」を使用し、海図を管轄する海上保安庁は同じく前身の旧海軍水路部の「埼」を、引き続き使用しているからである。旧海軍は、海図の使用者が地名から地形を判断出来るようにとの着意から土への埼を使用した。こんな所にも陸・海軍の違いがあるのだろうか。

（参考：百科事典、各種辞典、各種HP、道路地図帳）